

1 福生市の概要

(1) 沿革

福生市は、都心から西へ約40km、多摩川の東側に南北に横たわる市で、およそ1万年前の縄文時代早期には人が住んでいたと言われており、中世には数多く発見されている板碑などから、武士が土着していたと考えられている。また、福生の地名が歴史上に現れてくるのは11世紀頃ともいわれている。江戸時代の福生の地域は福生村と熊川村に分かれており、福生村が天領として、熊川村は天領と旗本領として治められていた。この江戸時代の承応2年(1653年)には、江戸市民への飲料水として隣接の羽村で多摩川から取水した玉川上水が完成しており、現在も市内の緑豊かな地帯として憩いの場となっている。明治になり廃藩置県後、蕪山県(明治2年)や神奈川県(同5年)に属し、同22年市町村制施行により福生村、熊川村組合役場を設け、同26年に東京府に編入されている。この頃民営の青梅鉄道(現在のJR青梅線)が敷設され同27年に福生駅が開業している。

昭和初期まではこの辺は養蚕を主とした農村であったが、昭和14年から15年にかけて、市の東北部に旧日本陸軍の「多摩飛行場」が設置され、さらに航空審査部と整備学校等が設置されて人口も増えはじめ一躍軍都として発展してきた。昭和15年11月には福生、熊川の両村が合併して町制を施行して福生町が誕生した。(15年の国勢調査で人口7,921人)

なお、同20年の終戦と同時に軍部の施設は米軍に接収され、その後数度の拡張を経て現在の市域の約1/3を占める横田基地となっている。

戦後は米軍の進駐に伴い、基地労働者やサービス業関係者等が増え、一般住宅とともに米軍人用の住宅ハウスが約2000戸も建てられるなど、基地経済が発達し基地の町として特異な発展をすることとなり、商店街も急速に発展整備されてきた。また、伝統の仙台、竹飾りの平塚、そして壁面飾りの福生といわれる名物行事である「ふっさ七夕まつり」の第1回目が同26年に行われている。商業の繁栄と観光をむすびつけた催し物として地元商店街のひとたちが取り組んだものであり、現在は40回を数え市をあげての一大観光行事となっている。(8月7日前後4日間開催)

同37年頃から基地の町からの脱皮が真剣に考えられ、同年に首都圏整備法による市街地開発区域の指定を受け都市計画を進めてきた。

そして行政サービスの一層の充実を図るため同45年7月、地方自治法の特例により人口3万8,749人をもって市制を施行し東京都下18番目の市となった。また、同41年からは地元町会のひとたちが中心となって螢の保護運動から始まった「ホタルまつり」がはじまっている(6月中旬土曜日開催)。

同45年に「世界平和都市宣言」、同48年に「健康都市宣言」がなされ、同51年2月には「福生市基本構想」、更に同52年6月に「福生市基本計画」（同61年3月修正）を策定し、『活力ある市民のまち福生』をメーンスローガンに、主として都市基盤、生活基盤整備のまちづくりをおこなってきた。同55年に「市民憲章」及び「市の歌」を制定。同58年に「交通安全都市宣言」がなされた。また、同59年には多摩川堤防沿いに植えられたさくら並木約500本全長約2.5kmの間で「ふっさ桜まつり」がはじまっており春のひとときを楽しむ多くの花見客で賑わっている（4月初旬開催）。

昭和51年の基本構想策定から10年余りの歳月が経過し、施設面についてはほぼ計画の達成をみる中で、価値観の多様化も進み、「もの」と「ところ」、「ハード」と「ソフト」、「人工」と「自然」などの調和が叫ばれ、「ゆとり」や「潤い」を含む真の豊かさや真の幸福が求められてきた。

このような状況の中で、平成元年12月に第2期の「福生市基本構想」を策定した。21世紀初頭における福生市のあるべき姿（将来像）を、「快適環境（アメニティー）都市、風格ある都市、人生80年時代に対応できる都市、産業に活力ある都市」の4つをまちづくりの目標とした。

そして市制施行20周年を迎えた平成2年4月からは、21世紀に向かうまちづくりのために「福生市総合計画」を策定し、美しさと国際性を高め『輝く街 福生』を目指しACCの行動指針のもとに、まちづくりに取り組んでいるところである。

なお、市の木として「モクセイ」（46.12.14制定）、市の花として「ツツジ（サツキ）」（46.12.14制定）、市の鳥として「シジュウカラ」（2.7.1制定）を制定している。

ACC

A（アクティブ） 行動的に
C（クリエイティブ） 創造的に
C（チャレンジング） 挑戦的に

（2）地勢及び位置

都心からは約40km西方にあって、近隣の市町では、立川市、昭島市、八王子市、秋川市、羽村町、瑞穂町、武蔵村山市に境を接している。また秩父山地の笠取山に水源を発した、1級河川の多摩川のおよそ50km下流の左岸（東側）にあたり、武蔵野台地の西端に位置する南北に横たわる面積10.24km²の市であり、市域は全国の市の中では小さいほうから数えて13番目の面積である。

地質は、大部分が関東ローム層で、多摩川に近い低地は沖積土である。

地形は、市の西側を流れる多摩川流域に向かって東側からほぼ3段階をなして傾斜し、また多摩川の流れに沿い北側の羽村町から南側の昭島市に向かい緩やかな傾斜をなしているもののほとんど平坦地であり、最も高い地点で143m、最低は104mである。市の約1/3を占める横田基地は河岸段丘の上段部分にあたり、市の東北部に位置している。

市街化区域は、横田基地と多摩川の河川敷部分を除き市の全域に広がっているが、段丘の中段部は福

生駅を中心として、市街化の中心地区として発展し、また、玉川上水が緑地帯を見せながら市の北西側から東側に向かい緩やかに流れているのもこの辺りである。一番多摩川に面した段丘もかつては堤防に守られた豊かな水田地帯であったが現在は区画整理等の整備が進み住宅や商店が立ち並びその面影はなくなっている。(市内の農耕地は僅か約33ha)

道路等の主な交通網は、基地沿いに国道16号線(東京環状線)がはしり、これに主要地方道立川・青梅線(奥多摩街道)、主要地方道杉並・五日市線(五日市街道)及び一般都道5路線と市道が交差している。鉄道では、小さな市域のわりには5つの駅があり、市の中央部を北西から南東にかけJR青梅線(福生駅、牛浜駅、拝島駅)が通り、それに拝島駅で接続している五日市線(熊川駅)、八高線(東福生駅)と私鉄の西武鉄道(西武拝島線)が乗入れており交通の便の良いところとなっている。なお、拝島駅は隣接の昭島市との境界に位置している。

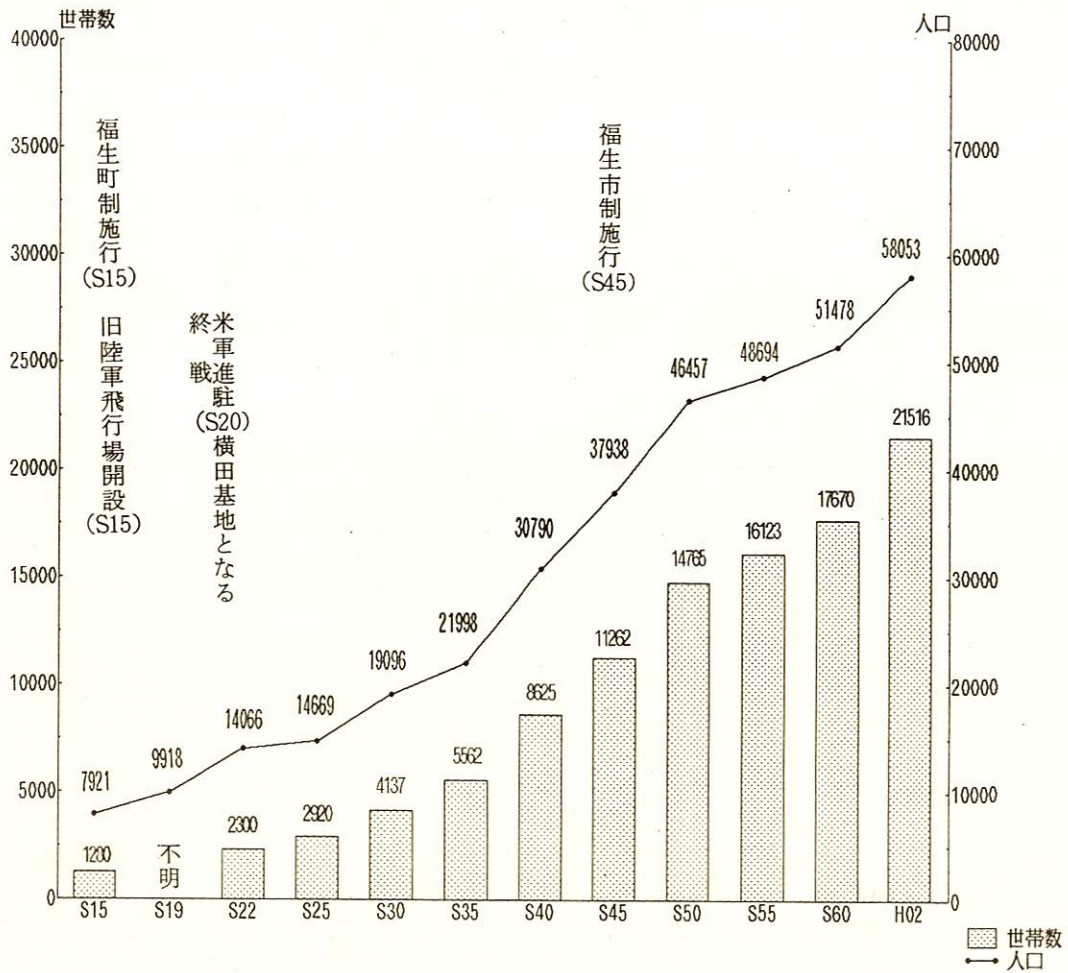
面積	10.24km ² (うち横田基地約3.32km ²)	
東西	3.6km	
南北	4.5km	
緯度	北緯35度44分07秒	(福生市役所)
経度	東経139度19分48秒	
標高	最高	143m(武蔵野台1丁目付近)
	最低	104m(福生第五小学校付近)



(3) 人口及び世帯数

ア. 国勢調査による推移

国勢調査にもとづく人口、世帯数の推移



イ. 人口及び世帯

〔現在の人口及び世帯数〕

(平成3年1月1日現在)

住民基本台帳人口	男	29,406
	女	28,631
	計	58,037
	世帯数	22,164
外国人登録人口	男	564
	女	484
	計	1,048
	世帯数	548
合計	人口	59,085
	世帯数	22,712

〔人口の増加状況〕

(毎年1月1日現在)

年	世帯数	人口		
		男	女	計
S.51	15,333	23,117	23,294	46,411
52	15,605	23,387	23,699	47,086
53	16,018	23,725	24,159	47,884
54	16,411	24,124	24,500	48,624
55	16,649	24,258	24,535	48,793
56	16,838	24,291	24,565	48,856
57	17,094	24,480	24,606	49,086
58	17,413	24,753	24,810	49,563
59	17,825	25,129	25,042	50,171
60	18,453	25,763	25,694	51,457
61	18,723	26,063	25,954	52,017
62	19,174	26,527	26,416	52,943
63	19,892	27,190	26,999	54,189
64	20,749	28,163	27,728	55,891
H.2	21,534	28,852	28,289	57,141
3	22,164	29,406	28,631	58,037

(住民基本台帳人口)

(4) 就業人口(産業別分類)の状況

(昭和60年の国調による。)

産業別分類	就業者数 人			比率 %
	男	女	計	
第一次産業	109	18	127	0.50
第二次産業	6,788	2,402	9,190	36.32
第三次産業	9,237	6,748	15,985	63.18
計	16,134	9,168	25,302	100.00

(昭和55年の国調による。)

産業別分類	就業者数 人			比率 %
	男	女	計	
第一次産業	130	33	163	0.71
第二次産業	6,430	1,979	8,409	36.49
第三次産業	8,494	5,978	14,472	62.80
計	15,054	7,990	23,044	100.00

(昭和45年の国調による。)

産業別分類	就業者数 人			比率 %
	男	女	計	
第一次産業	205	135	340	1.89
第二次産業	5,087	1,704	6,791	37.70
第三次産業	6,492	4,391	10,883	60.41
計	11,784	6,230	18,014	100.00

(昭和35年の国調による。)

産業別分類	就業者数 人			比率 %
	男	女	計	
第一次産業	409	83	492	5.20
第二次産業	2,196	518	2,714	28.66
第三次産業	3,580	2,683	6,263	66.14
計	6,185	3,284	9,469	100.00

(5) 市の予算の推移(当初予算)

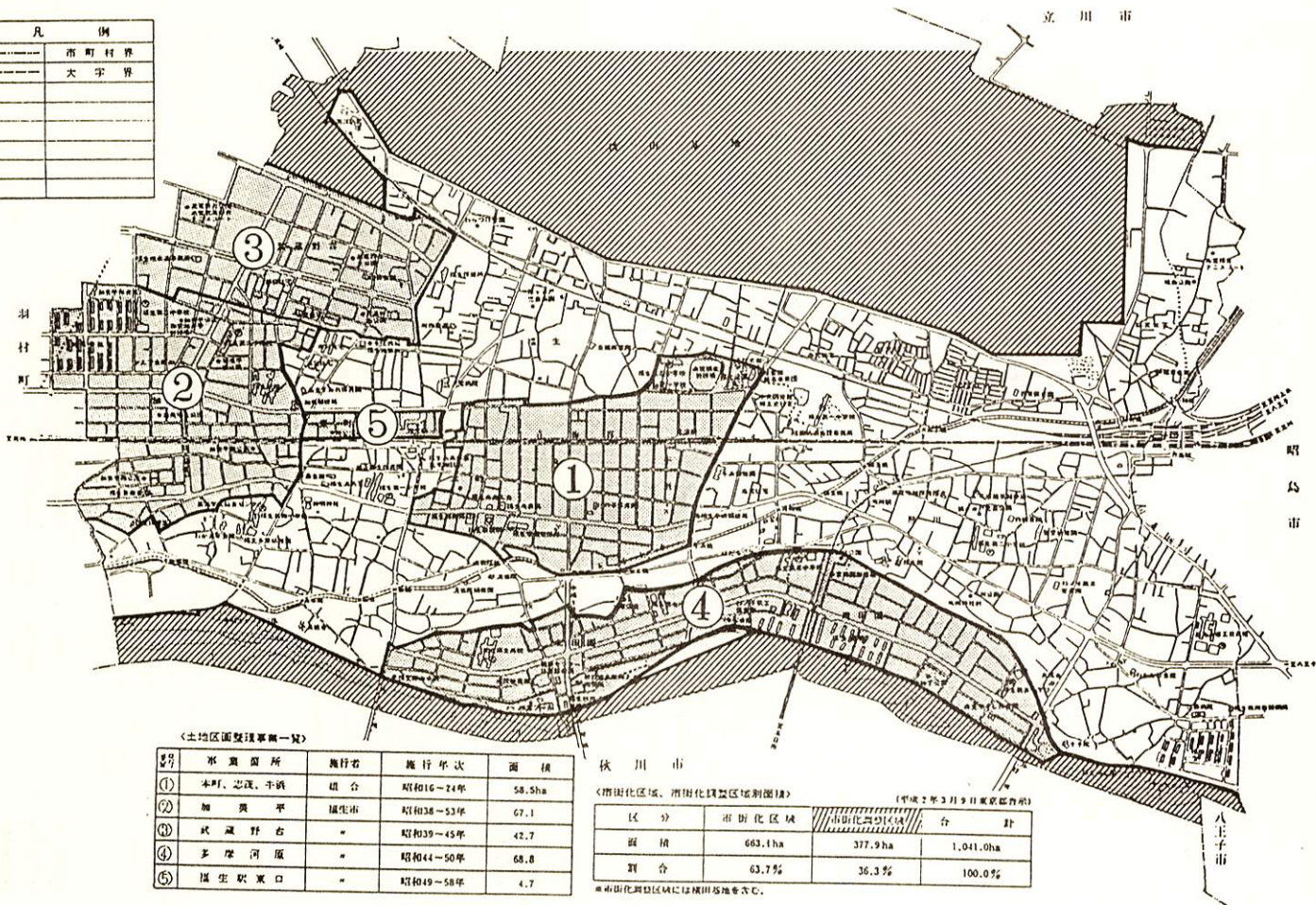
(単位:千円)

年度別	一般会計	区画整理 会 計	国保会計	下水道会計	老人保健 医療会計	小 計	受託水道 会 計	合 計
S. 56	10,180,872	88,835	1,146,000	2,656,000	—	14,071,707	510,340	14,582,047
57	10,600,137	94,105	1,168,160	2,803,320	—	14,665,722	568,760	15,234,482
58	10,976,896	66,099	1,192,874	2,252,847	931,275	15,419,991	516,640	15,936,631
59	11,764,202	17,332	1,274,053	1,833,457	785,392	15,674,436	542,480	16,216,916
60	11,245,069	661	1,466,914	1,745,276	871,681	15,329,601	517,757	15,847,358
61	12,253,869	291	1,549,062	1,788,219	954,074	16,545,515	616,160	17,161,675
62	12,776,007	291	1,751,915	2,037,582	1,051,489	17,617,284	858,610	18,475,894
63	13,264,516	190	1,981,587	2,234,051	1,220,801	18,701,145	686,800	19,387,945
H. 元	14,246,992	100	2,108,016	2,528,611	1,394,397	20,278,116	745,383	21,023,499
2	15,252,100	—	2,216,877	2,229,313	1,528,593	21,226,883	834,200	22,061,083
3	16,714,268	—	2,277,386	2,308,399	1,687,735	22,987,788	981,600	23,969,388

(6) 土地の利用(土地区画整理事業と市街化区域の状況)



凡 例	
-----	市町村界
-----	大字界



〈土地区画整理事業一覧〉

番号	事業箇所	施行者	施行年次	面積
①	本町、志茂、千歳	組合	昭和16-24年	58.5ha
②	細 興 平	福生市	昭和38-53年	67.1
③	武蔵野台	"	昭和39-45年	42.7
④	多摩河原	"	昭和44-50年	68.8
⑤	福生駅東口	"	昭和49-58年	4.7

伏 川 市

〈市街化区域、市街化調整区域別面積〉

(平成2年3月9日現在)

区 分	市街化区域	市街化調整区域	合 計
面積	663.1ha	377.9ha	1,041.0ha
割合	63.7%	36.3%	100.0%

※市街化調整区域には緑地も含まれる。

(7) 市の行政機構

平成3年3月1日現在

